



Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(2022.12)令和4年度:

,

若年性乳がん女性が抱える苦痛とその苦痛に対する 看護援助についての文献検討

学生氏名 市川夏鈴 伊藤朱里

(指導 濱田珠美)

緒言

若年性乳がんは、罹患率としては少ないが^{1,2)}、近年、患者が増加しており³⁾、予後が悪いことが懸念されている。若年と定義される年代の女性は、学業や就職に加えて、結婚、妊娠、出産など、女性特有のライフイベントを経験する時期にあり、多様な経験している中で、罹患は、全人的苦痛として女性に強く影響することが考えられる。がん患者の痛みは、身体面の痛みだけでなく、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から構成される全人的痛み（トータルペイン）となってがん患者に影響を及ぼす^{3,4)}。先行研究では、乳がん患者の心理的側面への看護援助は明らかになっているが、若年性乳がん患者のトータルペインに対する看護援助については見当たらなかった。本研究では、文献検討を通して若年性乳がん女性が抱える全人的苦痛を明らかにし、全人的苦痛に対する看護援助について検討する。

方法

研究対象

本研究では、研究背景を考慮して20代、30代の若年性乳がん女性を対象とする¹⁾。医中誌webを用いて「若年性乳がん」、「苦痛」、「看護」のキーワードで検索すると2件ヒットした。「若年性乳がん」、「看護師」のキーワードで検索すると5件ヒットした。「若年性乳がん」、「女性」のキーワードで検索すると1件ヒットした。これより、計8件^{5,6,7,8,9,10,11,12)}が研究対象の内容と一致したため、8件を文献を対象とする。

データ分析方法

入手した文献から全人的苦痛と看護援助について書かれている内容を抽出し、データとしてカテゴリー化する。若年性乳がん女性が抱える苦痛に対してどのような看護援助が必要か、根拠やつながりを踏まえつつ、全身的苦痛に対する看護援助を考察する。

倫理的配慮

本研究は先行研究に基づく研究である。引用・参照す

る文献は著作権の範囲内で使用し、出典を明示する。

結果

1. 若年性乳がん女性が抱える全人的苦痛について

若年性乳がん患者女性の全人的苦痛は10のカテゴリーに分類できた（表1）。多く抽出されたデータは、「乳がん告知に対する苦痛」や「家庭内の役割遂行の困難」、「人生の意味や死生観の変化」に関するものであった。

若年性乳がん患者に特徴的なデータとして、【妊孕性への影響に関する不安】、【母親役割や妻役割を果たせない思い】、【周囲に打ち明けられない孤独な不安】、【医療者に自分のことを理解してもらうことへの躊躇】、【ボディイメージの変化が受容できない苦痛】があった。

表1. 若年性乳がん女性が抱える全人的苦痛（コード数を（）で表す）

カテゴリー	サブカテゴリー
病気の進行による身体症状（1）	乳がんの進行に伴い生じる違和感や疼痛に対する苦痛
治療に耐える辛さ（2）	不確実な治療選択により、自分らしい生活をすることに對して懸念が生じる
ADLの支障（1）	乳がん治療により、これまでの生活様式を変更しなければならぬ苦痛
乳がん告知に対する苦痛（6）	乳がんかもしれないという漠然とした不安に加えて、乳がんと告知された際の衝撃に対する苦痛
妊孕性に対する懸念（2）	女性特有のライフイベントである妊娠・出産を望めないかもしれないという苦痛
医療者との関係性へのためらい（1）	弱者観、疎外感を得たくないことによる信頼関係構築の難しさ、感情を言葉にしづらいことによるコミュニケーションの困難さ
家庭内の役割遂行の困難（3）	母親または妻としての役割遂行が困難になることへの苦痛
仕事継続の困難さ（2）	治療費を稼がなければならないのみならず、社会的役割を担う世代であることから、十分に仕事に従事できていないことへの苦痛
セクシュアリティの苦痛（2）	セクシュアリティに関する苦痛
人生の意味や死生観の変化（3）	間近に見えた死への恐怖や、周囲に自分の気持ちを打ち明けられないことで、人生の意味や死生観に変化が生じる

2. 若年性乳がん女性への看護援助について

看護援助は、8つのカテゴリーに分類できた（表2）。多く抽出されたデータは「コミュニケーションスキルの活用」と「妊娠・出産に関する看護援助」であった。若年世代を対象とするという面において、【開きすぎない対応】【話し出す環境の設定】が看護援助として特徴的であった。女性のライフイベントに対する援助として、【がん治療の妊孕性への影響が予測される場合には、患者の育児希望を把握する】【妊孕性温存に関して、患者と家族、

主治医、生殖医療医などの間に調整の必要があれば、患者の思いを丁寧に聞き、患者が相手に伝えることを支援する】といった女性の主体性を尊重した関わり方が特徴的であった。しかし、包括的に書かれている看護援助もあり、全ての全人的苦痛に対して一つ一つ看護援助が対応されているわけではなかった。

表2. 若年性乳がん女性への看護援助（コード数を（）で表す）

カテゴリー	サブカテゴリー
症状の緩和（1）	安楽な体位の工夫
療養生活の環境調整（2）	患者らしさやプライバシー保護に配慮した、整容などの周囲の環境調整
情報提供（4）	がんの進行や、今後の治療の選択と療養生活についての情報提供
コミュニケーションスキルの活用（7）	適度な距離感を保ち、話しやすい環境を設定した上で、苦痛体験に寄り添いながら、療養生活における価値観や生き方、意向を捉える
社会的側面のサポート（2）	これまでの社会的背景を受け止め、罹患によって生じる社会役割への影響を把握し、対象の存在を尊重する
家族のサポート（3）	夫やパートナー、両親に対して病気の理解を促したり、本人との関係性の維持を支援する
妊娠・出産に関する看護援助（6）	女性が主体的に妊娠・出産に取り組めるような医療体制を整え、治療に対する意思決定ができるように環境を整える。
チーム医療による看護援助（4）	医療チームの調整役として多職種間をつなぎ、患者に対する支援体制を整える

考察

1. 若年性乳がん患者の全人的苦痛の特徴

若年性乳がん女性には、乳がんの進行による違和感や疼痛などの身体的苦痛、治療生活の辛さなどの心理的苦痛により、仕事や子育て、家庭内の役割といった社会生活に苦痛が生じている。また、治療中心の生活になることで生活の意味の喪失や、病気やボディイメージの変化への葛藤、妊孕性への懸念が生じ、周囲に打ち明けられない孤独感や今後の不安を抱えている。さらに若年の特徴として、医療者や他者に自分を曝け出すことに躊躇があることがわかる。

全人的苦痛では特に、「乳がん告知に対する苦痛」や「家庭内の役割遂行の困難」、「人生の意味や死生観の変化」についての苦痛のコード数が多く、より看護援助のニーズが高いと言える。それらの心理的苦痛やスピリチュアルな苦痛に対しては、接し方の工夫やコミュニケーションスキルの活用が求められる。また役割遂行の困難などの社会的苦痛には、家族のサポートなどの看護援助が求められる。

2. 全人的苦痛に対する看護援助の繋がりと必要性

看護者が若年性乳がん女性と関わる際に、適切な看護援助を提供するためには、前述したような若年者の全人的苦痛の特徴を踏まえて若年者を理解することが必要である。看護者は患者と共通認識や相互理解ができるよう

に、若年性乳がん女性の抱える思いや全人的苦痛に寄り添い、コミュニケーションスキルを活用して患者の価値観や意向を捉えることが重要である。

若年性乳がん女性の全人的苦痛は強く、多面的に深刻だと考えられるので、優先順位を考えて早く対応することが必要である。若年性乳がん女性に対する直接的な看護援助としては、疼痛などの症状緩和があげられ、次に間接的な看護援助である環境調整や情報提供、思いや悩みを語ってもらうためのサポート、社会的役割や家族のサポートが必要になる。また、妊娠・出産は女性特有のイベントであり、若年性乳がん女性にとっては命との引き換えになる可能性があるほど重い課題のため、看護者はタイミングを合わせて現段階の問題に向き合い、チーム医療の調整役として慎重に関わる必要がある。

結論

若年性乳がん女性の全人的苦痛の特徴は、ライフイベント関連や、周囲に打ち明ける躊躇や不安であり、身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな側面でそれぞれ複数の苦痛がある中で、特に心理的苦痛やスピリチュアルな苦痛が多かった。看護者はこれらの特徴を踏まえて全人的苦痛を理解し、若年性乳がん女性への接し方や優先順位やタイミングを意識して適切な看護援助を行う必要がある。

引用文献

- 厚生労働省(2021-9-21): 若年性乳がん患者のサバイバーシップ支援プログラム, <http://www.jakunen.com/html/tokucho/yogo.html>.
- 国立がん研究センター(2021-9-21): がん情報サービス, https://ganjoho.jp/public/life_stage/aya/index.html.
- 角田直枝, 濱本千春編(2012): ベスト・プラクティス コレクション がん疼痛ケアガイド, 132, 中山書店.
- 林章敏, 中村めぐみ, 高橋美賀子編(2010): エキスパートナース・ガイド がん性疼痛ケア完全ガイド, 28, 33, 照林社.
- 上田純子, 阿島美奈(2019): 子をもつ終末期の若年性乳がん患者の支援 社会的苦痛に焦点を当てて, 国立女院総合医学会講演抄録集 73回: 1-1-118.
- 大橋理沙, 他(2020): 若年性乳がん患者のがん罹患に伴う苦痛の特徴, 日本癌治療学会学術集会抄録集 58回, 513.
- 阿部恭子(2008): 若年性乳がん患者へのケア, 認定看護分野のトウデイズ・ケア 23巻, (7), 8.
- 阿部恭子(2011): 乳がん看護認定看護師による若年性乳がん患者への支援の内容と支援における困難, 25巻, 210.
- 内山美枝子(2012): 若年性乳がん女性の患者役割と性役割における支援者の認識構造, 日本が看護学会誌 特別号 日本が看護学会学術集会講演集 26巻, 193.
- 清水美津江, 他(2015): 若年性乳がん患者の妊孕性に関する乳がん看護認定看護師の情報提供, 第48回埼玉・群馬乳腺疾患研究会抄録集, 377.
- 神津三圭(2020): 妊孕性温存を希望する若年性乳がん患者, 乳がん患者へのトータルケア 病棟・外来看護師が知っておきたい乳がん看護のエッセンス(Part 4)事例にみる乳がん患者と家族へのトータルケア 66巻, 55-58.
- 内山美枝子(2010): 治療過程で生じる乳がん女性の心身苦痛体験の構造モデル, 日がん看護誌 25巻, 32.